

お待たせ

黒枝豆が販売解禁

丹波篠山

丹波篠山ブランドを代表する特産品「丹波篠山黒枝豆」の販売が7日朝、丹波篠山市内で一斉に解禁された。夏場の猛暑と少雨の影響で、地域により生育にばらつきがあり、例年より2日遅れの解禁となったが、直売所や店舗には、待ちわびたファンらが行列を作り、秋の味覚を買い求めている。出荷は10月末ごろまでの見込み。

黒枝豆は、おせち料理などに使われる最高級の黒豆「丹波黒大豆」を完熟する前に収穫したもの。大粒で甘みが強いのが特徴で、全国ブランドとして名高い。

この日、篠山東雲高校（丹波篠山市福住）の実習農場で、販売解禁セレモニーがあり、関係者が「樽開き」で黒枝豆のシーズン到来を祝った。市内では約2800戸の農家が黒大豆を計約780トンで栽培。例年、その3割ほどが枝豆用に販売される。

市などによると、高温少雨の影響で、今年のさや付きは平年

猛暑と少雨で生育遅れも

待ちわびたファン、長蛇の列



直売所には解禁を待ちわびた購入客らで長蛇の列ができた＝JA丹波ささやま味土里館

の9割ほど。生育の関係で、販売本格化が遅れる集落もあるという。



黒枝豆の販売解禁を樽開きで祝う篠山東雲高校の生徒や市、JAなどの関係者＝丹波篠山市川原

JA丹波ささやま味土里館（同市東吹）では、腕いっぱい袋を抱える人や箱でまとめ買いする人が多く、午前中で枝付き豆が完売した。加古川市から訪れた さん(69)は「解禁日に購入するのが毎年の恒例行事。今年も親戚が楽しみにしているの送りたい」と笑顔だった。

丹波篠山市農都政策課は「黒枝豆は熟成が進み、収穫時期によってコクのある味へ変化していく。タイミングを変えて購入してもらえれば」とPRしている。

2023年10月8日

神戸新聞